

くを拓く

かつて「男の仕事」と言われていた時代に
自動車整備士になる夢をかなえた女性がいた。
今もなお揺るがないクルマへの情熱を
未来の整備士たちに注いでいる。



専門学校 花壇自動車大学校

教員
大屋 智美さん

プロフィール
1983年大原町生まれ。高校を卒業後、花壇自動車整備専門学校(現 花壇自動車大学校)に入学。2003年から仙台市内のカーディーラーで自動車整備士として働き、結婚を機に退職。11年、花壇自動車大学校で教員に採用され、自動車整備士を目指す生徒の教育にあたる

クルマに夢中になった高校時代 自動車整備士の道を志す

大屋さんが自動車に興味を持ったのは高校生の時。時刻表や路線に拘束されることなく、行きたい場所に連れて行ってくれる自動車に憧れたのがきっかけだった。

「自動車雑誌を夢中になって読んでいたり、カーアクション映画で興奮したり。知れば知るほどクルマにのめり込んでいきました。でも、当時私は女子高に通っていたので、学校でクルマの話ができる友達はい人もいませんでした。むしろ恥ずかしくて隠していたくらいです」

大屋さんは、仙台で自動車のイベントが開催されると会場に足を運び、クルマについて語り合える仲間を少しずつ増やしていったという。

「見た目のカッコよさだけでなく、車内の装備や音響など、様々なこだわりを持つ人たちの話を聞いて、クルマの奥深さにワクワクしていました」

そして高校3年生の時、将来は大好きな自動車に関わる仕事に就きたいと考えるようになった大屋さん。アルバイト先のガソリンスタンドで自動車整備士の仕事を見て「これだ！」と思った。

「高校を卒業したら、専門学校に通って自動車整備士の資格を取りたいと父に相談しました。でも、自動車整備は男社会だ。女のお前には務まらないだろう」と頭ごなしに反対されました」

親の反対を押切り夢の実現を果たす 結婚・出産を経て母校の教員に

「きつい」「汚い」「危険」。当時は3Kの仕事の代表格と言われていただけに、父親の反対は予想通りだった。それでも、夢をあきらめられなかった大屋さんは、内緒で願書を取り寄せ、専門学校の入学を申し込んでしまったという。

「合格通知が届いたときの喜びは今でも覚えています。でも同時に、入学金の支払いはどうしようかと焦りました」

大屋さんは、勝手に出願してしまったことを父親に打ち明け、あらためて自動車整備士になりたいと訴えた。父親は突然の出来事に驚いたが、その熱意に負け入学を認めてくれた。

こうして大屋さんは、専門学校で自動車整備について2年間学んだ後、仙台市内のカーディーラーに就職した。当時はまだ女性の自動車整備士が珍しかった時代。整備工場には女性専用のトイレも更衣室もなく、つなぎを着たまま通ったこともあった。

「それがつらいと感じたことは一度もありません。大好きなクルマに触れることができる幸せを毎日実感していました」と大屋さんは話した。

結婚を機に退職し、自動車整備の世界を離れた大屋さん。子育てが落ち着き現場復帰のタイミングを探っていたとき、恩師から「教員にならないか」と打診を受けた。

「整備士の卵たちを育てるのも面白そうだと感じましたし、私なら整備士を目指す

など感じましたし、私なら整備士を目指す女子の力になれると思ったんです」

こうして2011年に、大屋さんは母校の教員になることを決めた。

迷える「クルマ女子」に手を差し伸べ 夢をかなえる力になりたい

現在、広報担当として自動車整備の魅力を伝える役割も担う大屋さんは、より多くの女性に自動車整備の仕事に興味を持ってほしいと思っている。自動車整備業界でも国際的な環境基準を導入している企業が増え、大型トラックを扱うような工場でも女子更衣室が用意されているなど、整備工場の職場環境は大幅に改善された。

近年、整備士が直接お客様に対応するケースが増えたことや自分の車を持つ女性が増えたこともあり、女性整備士のニーズが高まりをみせている。学校では現在19人の女子生徒が通い、カーディーラーや自動車整備専門の企業から「女性を採用したい」という問い合わせが多く寄せられている。しかし、世間ではまだ男の仕事というイメージが根強く残る。進学ガイダンスでも、「私は女だから」「親に反対されているから」という相談を受けることがあるという。

「整備士になる夢に一歩踏み出せないでいる女子たちの背中をそっと押してあげる。そして、この学校で夢をかなえる手助けをするのが私の役目です」と話す大屋さん。熱い使命感を秘めて、今日も笑顔で教壇に立つ。



エンジン部品の組付けをする生徒を見守る大屋智美さん。「自動車整備士は、運転者や同乗者の命を守る責任ある仕事」と生徒に伝えている

「今日の作業は、ボルトを締め付ける順番に注意が必要です。組付けを間違えるとエンジンが壊れてしまうことがあるので、作業は慎重に行ってください」
花壇自動車大学校の実習室は、朝から大屋智美さんの明るい声が響き渡った。
この日は自動車科の生徒が、自動車エンジンの組付けに挑戦。工具を手に持ち、バラバラになったエンジン部品の前で悪戦苦闘する生徒たちを見て回りながら、教員の大屋さんは優しくアドバイスしていた。
「いつも楽しそうに授業を聞いてくれる生徒たちからは、クルマが大好き」という気持ちひしひしと伝わってきます。この学校で学んでいた当時の私と重ねながら、生徒たちにも自分の夢をかなえてほしいって思っているんです」と大屋さんは目を輝かせた。



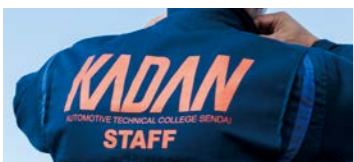
部品を手に持ち、実習で行う作業の手順や注意点を丁寧に説明する



進路やプライベートの悩みも話せる相談相手として女子生徒からも慕われる



「自動車整備業界でも女性ならではの繊細さが求められています」と話す



専門学校 花壇自動車大学校

1955年開校の専修学校。自動車科(2年課程)、一級自動車科(4年課程)、車体科(1年課程)を設置し、自動車・バイク整備のスペシャリストを養成する

所在地

仙台市青葉区花壇 8-1
TEL 022-222-3838

<http://www.kadan-atcs.or.jp/>

